という思いを大切にしま 知りたい 知識や技術は興味の副産物 できるように な

よう りた

先生に聞

ミュラ(KIT-Formula) などの学生プロジェクト、 プログラムなど、学生主体かつ世界レベルの取り組み しています。今回は、同大学で2016年4月に学長 開発プロジェクトや学生フォ

尾家祐二 (おいえ・ゆうじ)

1954年生まれ。長崎県出身。工学博士。研究領域は情報ネットワーク工学。 78年3月に京都大学工学部数理工学科を卒業。80年3月京都大学大学院工学研究 科修士課程数理工学専攻修了後、翌4月より日本電装株式会社に入社。83年4月に 佐世保工業高等専門学校電気工学科助手となり、その後は同講師、助教授を務める。 87年1月に工学博士の学位を取得(京都大学大学院)。90年4月九州工業大学情報 工学部助教授となる。奈良先端科学技術大学院大学情報科学センター教授を経て、 97年より九州工業大学情報工学部教授。2008年より同大学大学院情報工学研究 院教授を務める。九州工業大学において、情報工学部電子情報科学科長、情報科 学センター長、ネットワークデザイン研究センター長、情報工学研究院長などを歴任。 16年4月より国立大学法人九州工業大学学長に就任、現在に至る。

14年に「情報通信月間」総務大臣表彰。共著に『コンピュータネットワーク』(共立出 版・1999年)、『インターネット入門(インターネット講座第1巻)』(岩波書店・2001年)。

わたしの 勉学時位

子ども時代は、親戚の船に乗せてもらい魚 **釣りをした記憶もあります。小学生の頃は** 町内のソフトボールチームに参加するなど、 体を動かすことも大好きでした。

島を歩き、 41 を馳せる

島では、 現するまでに要した歳月は約20年です。 奄美大島が本土復帰した後、 カの施政権下にありました。ます。奄美大島と沖縄は、戦 崎県の対馬や五島列島などを訪 親戚と引き裂かれ、 縄の北へ行くと与論島が見える場所がある 来を阻害する境のあったことに想いを馳せ 私は離島めぐり 神社や寺院などを訪ねたりして過ごしま 最近はなかなか時間を割けずにいます 人々の生活がどれほど大変かなど、 っただろう」と考えました。 そして、 様々な体験を通して学ぶことが多 ゆ そこへ立った時は「昔、 っくりと海岸線を歩いたり、 かつてそこに人の自由な行き 悲しい思い 戦後共にアメリ 沖縄返還が実 これまで、 1953年に 離島で暮ら をした人も れました。 家族や 現地 ク 沖

> きます。 ちも落ち着き、 /ます。 物事にじっくりと向き合えば、気持っ。ふだんとは違う時間の流れに身を 頭の中を整理することがで

大人になって離島めぐりが趣味になるなんように思っていました。当たり前すぎて、 佐世保市には*九 頃は、たくさん島のある風景を当たり前の 世保市には*九十九島があります。幼いそんな私の生まれは長崎県佐世保市です 昔は考えてもみませんでした。

島。「九十九」には「たくさん」の意味があり、大西海国立公園に指定されているリアス式海岸の群 小208の島々で成り立つとされて いる。 島の密

くこと」 ك 0)

物だったら、こんな色のペンキで塗って。まに家族で遊びに出かけた先でも「あの建 どんな時でも仕事 に臨む父の姿がいつも身近にありました。 に小さな店舗が併設されていたので、私の父は塗装業を営んでいました。 そんな父の口癖は「これほどまでにや 0) げられるかな」などと考え始めるんで のある仕事はない」でした。 職人が数人で取り が一番の職人気質で、 かかれば、 「好きな 何日で 仕事 自じ宅を た

> だ」ということを自然と学んでいたの 感謝までしてもらえるのだから」と語る父 しょうね。 今思えば「働くって楽しい ことなん で

なく、 ばかりで、自分の不器用さを痛感しました変苦労したものです。周りは上手な子ども と諦めるよりも、 一度も触ったことがなく、バイオリンを始めました。 いただき学校の器楽部に入部。 学4年生の頃からは、 たものの、 れるまま通い始め、 す。絵画や習字、 ことにチャレンジする子どもだったよう び伸びと育ったためか、 は2歳も離れていました。 私は4人兄弟の末っ子で、 先生に誘ってもらえたことが何より き学校の器楽部に入部。課外活動で-生の頃からは、担任の先生に誘ってといいました。小どれも楽しんで続けていました。小どれも楽しんで続けていました。小 他人と比較 それが理由で心が折れることは 楽しくて続けていたことを覚え そろばん教室などに誘わ 楽しい気持ちが勝 あまり である。 関りは上手な子ども とようず なく、一曲弾くのに大 して「自分はだめだ」 物怖じせず新し の 愛情を受けて伸て、一番上の姉と それまで楽器を 上達はしなかっ 一番上の姉 って 61 で

いたのを、漠然とですが「いいな」と思い学校に進学すると面白いぞ」と熱弁され 生が「これからは技術の時代だ。 そんな私が初めて将来について考えた 中学生の時です。 担任で理科 工学系 : の 山 口 0 先 0

1909(明治42)

年に開校した明治専門学校を起源に持つ国立大学法人九州

九工大から世界へ

「国際社会で活躍し続けられるための 学びと経験を、大学ではサポートしてい きたい | という尾家先生。そのサポート を代表するのが、国際交流プログラムの 一つである海外派遣プログラムです。夏 季休暇や春季休暇などを利用して、海外 の大学や企業で研修を行います。1年次 から参加でき、異文化交流から語学研修、 研究交流まで、多彩なプログラム内容か ら自分に合ったものを選べるのが特長で す。以前は数十名程度の参加であったの が、昨年度は500名を超える(在学生10名 のうち1名程度) 学生が海外へ行きまし た。休暇を利用するプログラムなので参 加しやすいと好評です。また、海外の企 業で就業体験をする海外インターンシッ プでは、大学や企業から費用の補助も受 けられ(国や企業により金額は異なる)、 学生が積極的に参加できる環境が整って います。

術に置き去りにされる」危機感も抱いて

しかし一方で「人の心が、

このように社会に浸透してきたことを嬉しまで研究に携わってきたネットワークが、

する力が必要なのではないでしょうか。

ワークを利用する際は、

技術と心の

ランスを大事にしたいですね。

感じ方の違いを客観的に理解して、

れたことは、

たことは、大変感慨深いことです。これの世界。その黎明期において研究に携わ

これ

とができるのです。

だからこそ、

考え方、

今や欠かせない存在となったネットワ



海外インターンシップの様子。シンガポールの企業 で地下鉄工事に携わったそうです。大規模プロジェ クトに参加する機会があるかもしれませんね!



九州工業大学オリジナルグッズ (手提げバッグ、 ラメ入りマーカー、ハンドタオル、大学案内、 広報誌)を3名の方にプレゼント。投稿用ハガ

4月号「わたしの勉学時代」プレゼント(広島大 学オリジナルグッズ) の当選者は伊川朋美さん (大阪府・Dr.関塾杉本町駅前校)他2名の皆さ んに決まりました。おめでとうございます!

校への進学を決めました。高校受験のため 学へ行き、学びの幅を広げておいたほうが に、特別に何かをしたということはありま とができなかったため、 い」と言われ、長崎県立佐世保南高等学 その繰り返しでした。 日々の授業を大切にして定期考査に 山口先生から「大 数学だけは私 中学時代、バレーボール部に入ったのも、生 徒会で書記を務めたのも、山口先生を通して 「面白い」と思ったことがきっかけです。 先生

とは、その後も親しくさせていただきました。

けてがんばったり、 す。同級生の仲間たちとは、共に受験に向添削までしていただいたことを覚えていま 当時の佐世保南高校には京大合格の実績が たこともあります。フィルムは学校の暗室保の教会では、祈りを捧げている人を撮っ 慎重にシャッターを押しました。私がモデ に入りました。当時はフィルム写真でした た。家から徒歩ですぐの場所にあったので 生徒の自主性を大事にする自由な学校でし 旧制中学校時代の気風を受け継いだのか、 英語が特に好きでしたね。 方が大変熱心に応援してくださいました。 で現像しました。最後まで自分たちで作業 ルによく選んだのは地元の風景です。佐世 京都大学を受験する際には、 佐世保南高校は進学校ではありましたが 構図を決めて、 その場で撮ったものを確認できませ なかったのですが、 やすかったです。 光の具合を確認して、 よく遊んだりと良 情報が少ない中 部活は写真部 高校の先生 丁でを

思いました。

等専門学校へ行くつもりでした。

しかしそ

私が特定の分野に強い興味を持つこ

技術者になるため、初めは佐世保工業高

先生の助言を受け大学進学

聞き「面白そうだから技術者になりたい」と

たことがありませんでしたが、

先生の話を

きになっていきました。

中学時代は数学と

たが、

やすい町でした。

小学校の器楽部で

バイオリンを演奏す

る尾家先生(写真

上・前列右)と、祭

りで神輿を担ぐ先生

(写真下・手前右)。

できて楽しかったです。

京都は学生が住み

ました。隣の部屋の音が筒抜けの環境でし

いろいろな大学に通う同年代と交流

います。

京都では学生が集まる下宿に住み

校生活を送ることができ、

幸運だったと思

い出をたくさんつくりました。恵まれた高

るものばかりで面白く、数学がどんどん好 先生の示される解法は、すんなり納得でき も、エレガント、だったのを覚えています。 塾に通っていて、そこの先生の解説がとて

の職業とを結び付けて具体的にイメージし た時代です。それまで、理系の勉強と将来

真っただ中で、技術の発展が目覚ましかっまっただ中で、技術の発展が目覚ましかっした。日本はちょうど高度経済成長期の

ので、 とても通い をするので達成感がありました。 で適切な問題集を選んでいただき、

技術と心のバランスが大事

得意な数学を社会に応用できる術を模索しは、一言で表すと理論を学ぶところです。 出合いは大学院時代、 いので間口の広い学問です。 ていこうと思い選びました。 私が進学した京都大学工学部数理工学科 数学をネット 分野を絞らな 専門分野との

い思



知識と技術は興味

から、 晴らしいことだと思います。ながるテーマが見つかったなら、 けを与えてくれるのは、皆さんの周りにい 気持ちさえあれば、知識や技術は自然と得 はずです。それらを探究していってくださ 行ってくれたり、 る大人たちです。 られることでしょう。そして、そのきっか たいな」「できるようになりたいな」という 技術の獲得は、 興味を持つことだと思っています。 。たくさんある興味の中から、 小中高校時代において最も大事なことは 「面白そう」と思えるものが出てくる 興味の副産物です。 話をしてくれたりする中 いろいろな場所へ連れて とても素が 知識や 「知り

性格は、

子どもの頃から変わりませんでし

るのが現実ですが、

世界中とつながってい

好奇心の赴くまま、新しいことに取り組む

ぬ世界を「面白そうだ」と感じたからです。

には大変感謝をしています。

ができ、国や人同士を強く結びつけること

ができます。今までつながることができな

った国や文化、人とも気軽につながるこ

で、私たちは簡単に境界を飛び越えることるのがネットワークです。ネットワーク上

夫先生(工学博士。第15代大阪大学総長) た。この世界へと導いてくださった宮原秀 基礎研究が行われていたところで、*****。当時はインターネットが無く

未だ見

その

待たずに進歩します。

人をサポートするた

しまうこともあることを知っておきましょ

人の心をのみこみ、

支配して

一扉を開ければ隣の部屋につながってい

ます。時に技術は、私たちの理解や感情を

当時はインターネットが無く、

に応用する講座に入ったことがきっかけで

の副産